

地域セーフティネット活性化事業

平成 27 年度に検討した「地域セーフティネット構想」に基づき、構想を実現するための人員配置や地域の把握機能強化及び連携のためのしくみづくりを行い、「ささえあい ふれあい 絆の深まる福祉社会」（第 3 次地域福祉計画 福祉社会像）の実現を目指します。

1. 氷見市における近年の地域福祉施策

新たな公的制度の施行と共に、地域（旧小学校区単位の地区社協）では、一貫して安心して住み続けられる地域を目指して、ふれあい型の地域福祉活動や個別支援型のケアネット活動を継続してきました。その中から見えてきた生活課題や地域課題に基づき、平成 22 年から安心生活創造事業を皮切りに、生活困窮者自立促進モデル事業（生活困窮者自立相談支援事業の前身）、基幹相談支援事業、地域セーフティネット活性化事業（H27 年度：市単、H28 年度：多機関の協働による包括的支援体制構築事業）を活用し、さまざまな課題を解決するための活動やしくみを作りだしてきました。



2. 地域セーフティネット構想とは

相次いで、孤独死、孤立死等の事例が挙がり、社会的孤立者への支援の強化と共に、虐待、サービス拒否（支援拒否）等、社会的孤立に陥る可能性のある市民を早期に発見し、適切な支援を行うために、既存の取り組みに加え、社会的孤立者を取り巻く環境の課題を踏まえた新たな取り組みを組み込んだ「しくみ」を地域セーフティネットとといいます。このセーフティネットを整備するために必要な取り組みをまとめたものが地域セーフティネット構想となります。

セーフティネット構想構築までの流れ

◆実態把握

→簡易調査(民生委員) →孤立する可能性のある項目の抽出

◆先進地視察

→セーフティネットのしくみ(大阪府豊中市社協・兵庫県宝塚市社協)

◆セーフティネット構築のための研修会の開催

→引きこもり者支援の実践紹介(秋田県藤里町)

→事例困難ケースへの対応のための専門職研修

◆地域セーフティネット活性化会議の開催

→社会的孤立者を取り巻く課題の明確化

→「地域セーフティネット構想」の検討

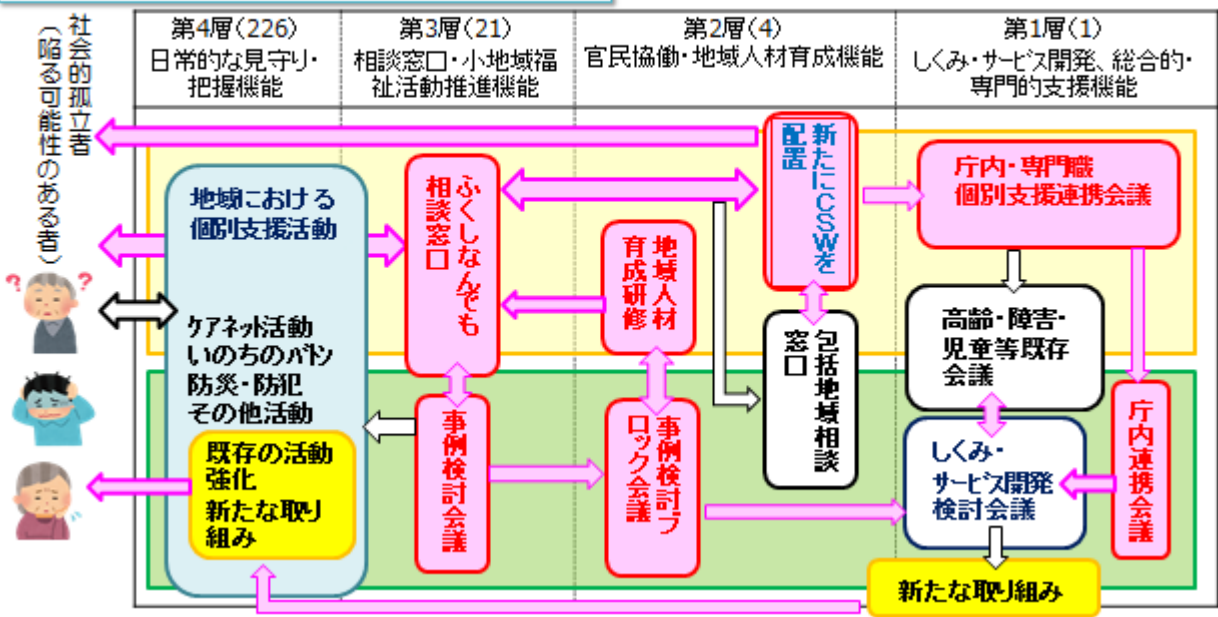
地域セーフティネット構想の構築

→アウトリーチ機能の強化(CSWの配置)、庁内連携の強化
(庁内連携コア会議の開催)、地域なんでも相談窓口の開設

【氷見市における社会的孤立者を取り巻く課題】

- 社会的孤立者（陥る可能性のある者）の把握の難しさ
- 把握した場合の迅速かつ適切な支援の流れが不明確
- 社会的孤立者（陥る可能性のある者）への支援方法が少ない
- 支援するにあたり、地域、専門職、行政の連携の一定のルールが不明確
- 制度の狭間に埋もれた課題への対応

セーフティネットの全体像



3. 本事業の具体的な取り組み

セーフティネット構想では、これまでの取り組みを最大限発揮できるように以下の機能を強化することを目指しています。

【強化ポイント及びその取り組み】

○アウトリーチ機能（従来の相談が来ることを待つのではなく、地域や個人宅等へ積極的に出向き社会的孤立者や陥る可能性のある市民を探し出すこと）の強化

→コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置

○地域の課題把握機能の強化

→地区社協単位（民協単位）の「ふくしなんでも相談窓口」の設置

→相談窓口の担い手育成のための研修開催

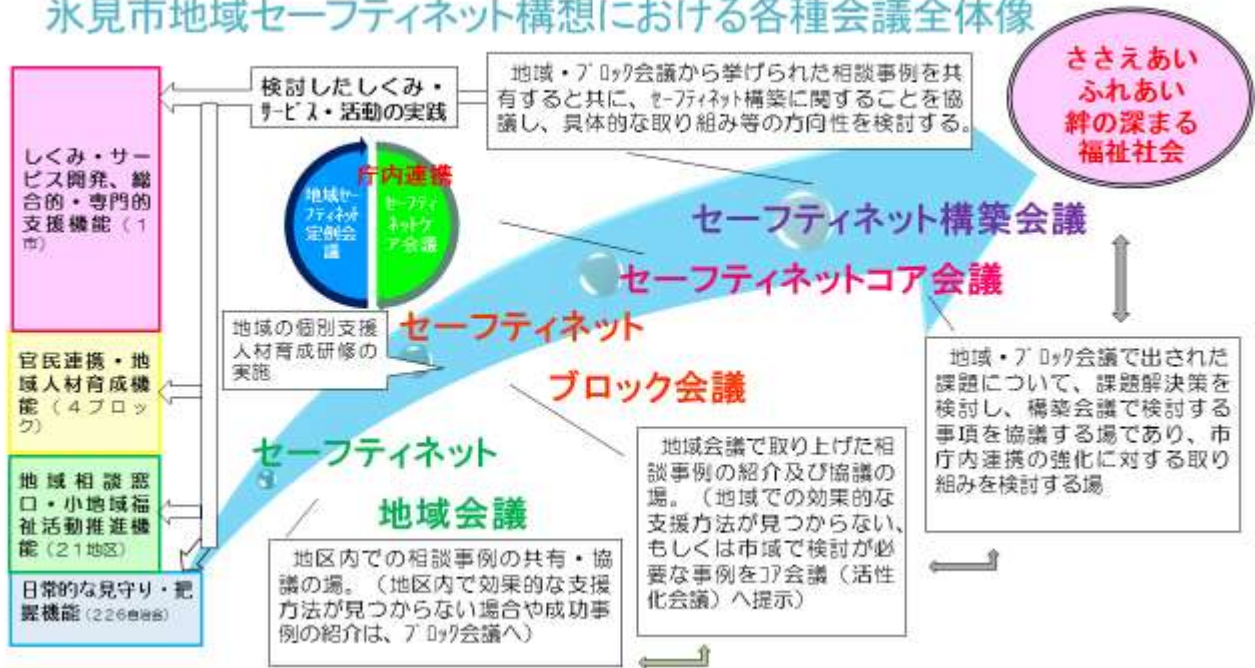
○地域・専門職・行政の連携強化及び新たなしくみやサービス等の開発

→第3層の「セーフティネット地域会議」や第2層の「セーフティネットブロック会議」の開催と共に、そこで出てきた課題を市全体で協議する「セーフティネット構築会議」での発題を通じて、新たなサービスやしくみを官民協働で開発する

○行政内の連携強化

→セーフティネットコア会議（事例に基づく新たな課題を解決するための取り組みを検討する会議）、市内事例検討会議（定期的な情報共有）、緊急ケア会議（CSW等が把握した相談に対して多機関で支援しなければならないケースの役割分担及び支援方針を検討する）を開催

氷見市地域セーフティネット構想における各種会議全体像



4. コミュニティソーシャルワーカーの役割

コミュニティソーシャルワーカーの役割は、セーフティネットを実現するために、地域や専門機関と連携し、社会的孤立者（陥る可能性のある者）を把握し、生活課題に応じて適切な支援へつなげることや専門機関や行政の分野（高齢者、障害者、児童等）を越えた連携をスムーズに実現するためのマネジメントを行うことです。

主な具体的な役割は、以下のとおりです。

○ふくしなんでも相談窓口のバックアップ

→開設支援と共に、開設時の同席、窓口寄せられた相談への対応（家庭訪問等）、支援のマネジメント

○地域と専門職・行政の橋渡し

→事例検討会議の場の調整、庁内関連会議の調整

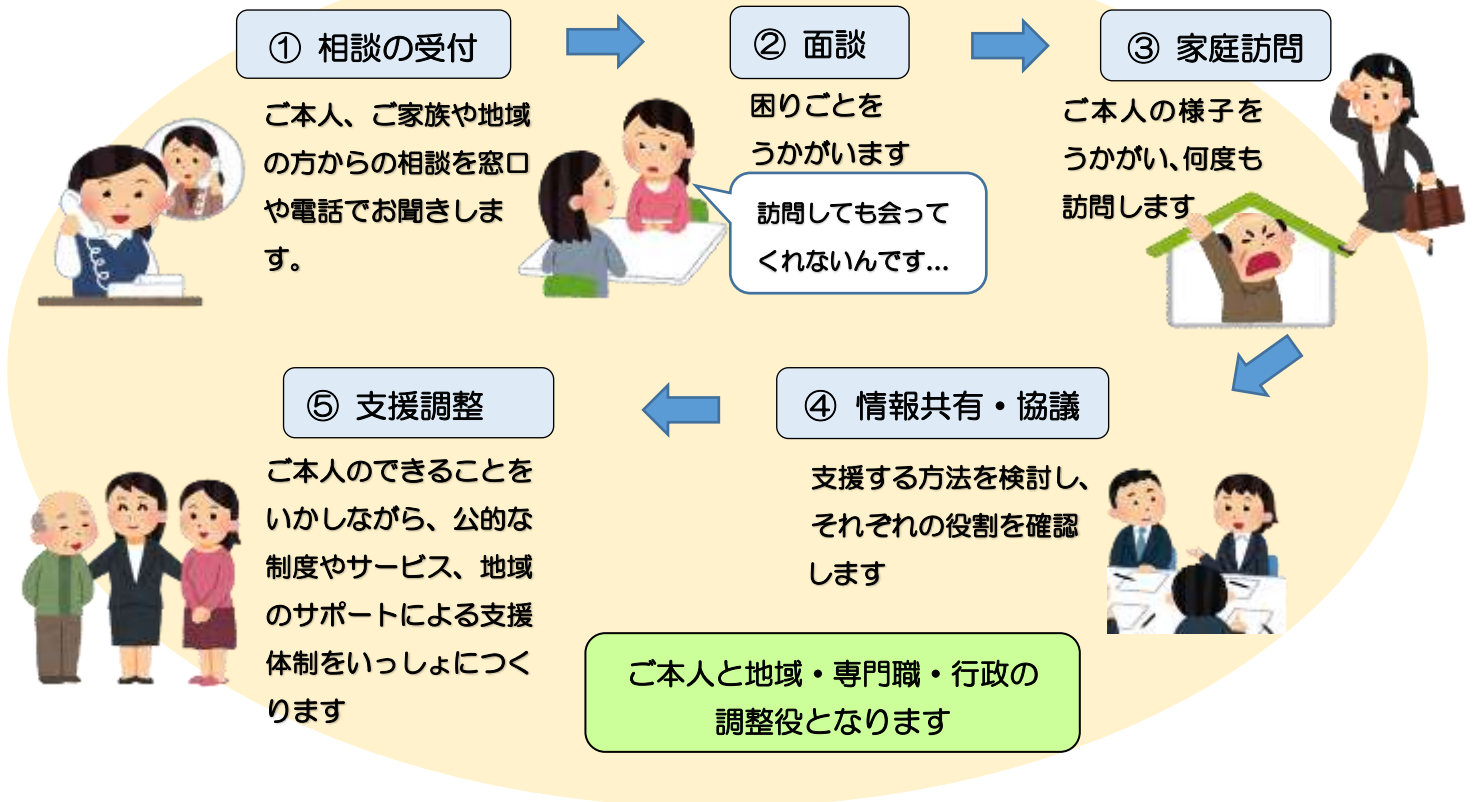
○地域での問題解決能力を高める

→相談窓口人材の育成研修の開催

○新たなしくみ（活動・サービス）の開発支援

→しくみ・サービス開発検討会議等、対応が難しい生活課題を解決するための協議の場づくり

コミュニティソーシャルワーカーの役割の一つとして 支援を拒否する方の事例



5. 全世代・全対象型地域包括支援体制の構築を目指して

コミュニティソーシャルワーカーの配置や各層単位の情報共有・協議の場づくりを通じて、「我が事・丸ごと地域共生社会」の実現を目指します。

氷見市が目指すセーフティネット構想(全世代・全対象型地域包括支援体制)

